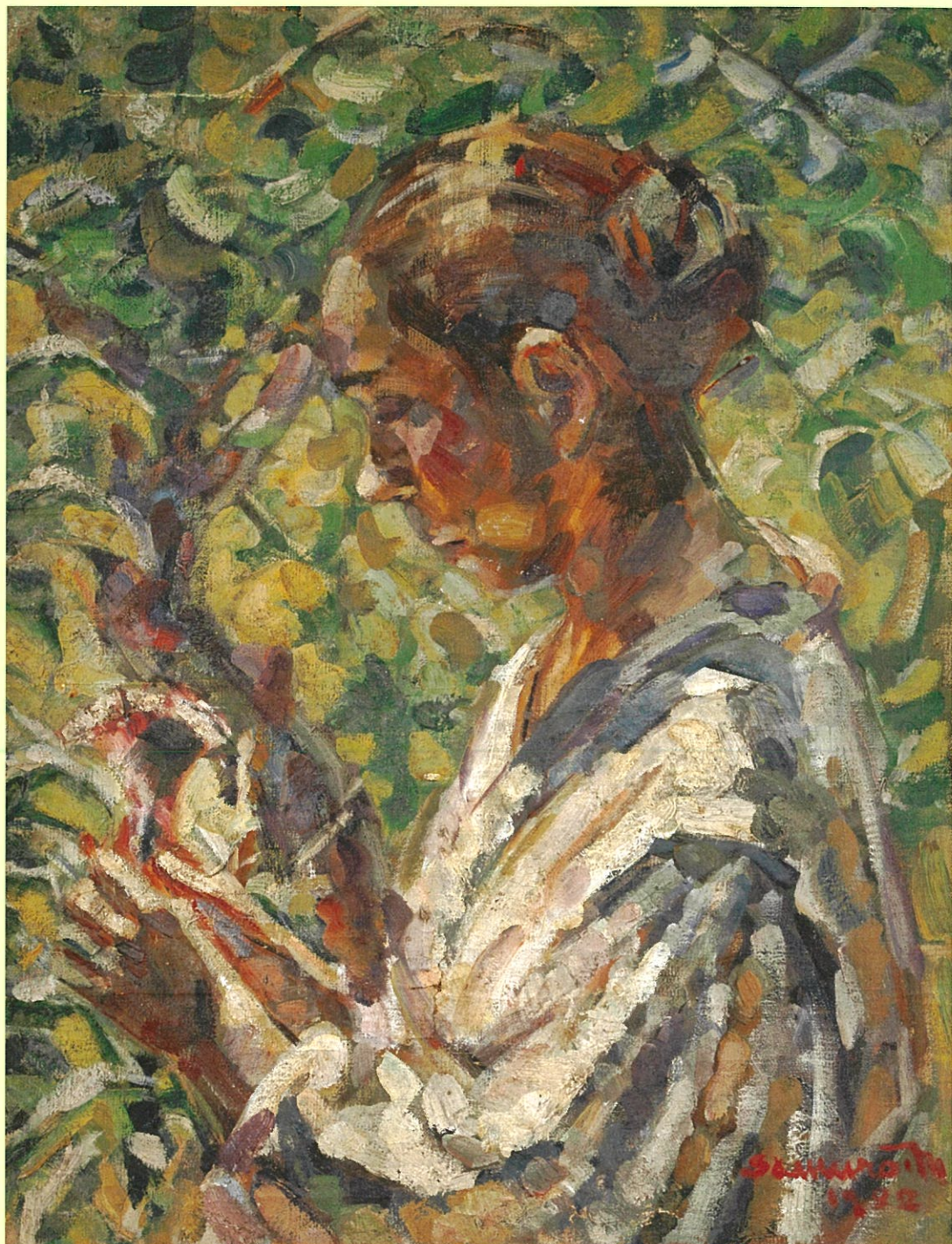




《(妹・志乃像)》1922年

宮本三郎、 画家として

はじまりから 戦争を経て 1920s-1950s

2021年4月1日 | 木 | — 9月26日 | 日 |

開館時間 | 10:00~18:00(最終入館は17:30まで)

休館日 | 毎週月曜日(ただし、祝・休日と重なった場合は開館、翌平日休館)、5月3日(月・祝)、8月9日(月・振替休日)、9月20日(月・祝)は開館、5月6日(木)、8月10日(火)、9月21日(火)は休館

観覧料 | 一般200円(160円)、大高生150円(120円)、65歳以上/中小生100円(80円)

* 障害者の方は100円(80円)、ただし小・中・高・大学生の障害者は無料。介助者(当該障害者1名につき1名)は無料。証明書をご提示のうえ、お申し出ください。 * ()内は20名以上の団体料金 * 小・中学生は土、日、祝・休日、夏休み期間は無料

妹をモデルにした希少な一作。
当館が所蔵するなかで最も若い
時期に描かれた、17歳の作品。

世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-38-13

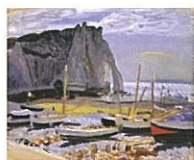
TEL.03-5483-3836 <http://www.miyamotosaburo-annex.jp/>

宮本三郎、 画家として

はじまりから 戦争を経て 1920s-1950s

2021年度の宮本三郎記念美術館では、洋画家・宮本三郎(1905-1974)の画業を、年間を通して2期に分けてご紹介いたします。

第1部となる本展では、画家としての出発から初の渡欧期の作品、また従軍画家としての仕事や戦後にみつめた故郷の風景までを中心にご紹介します。

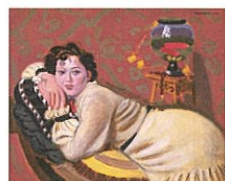


《エトルタの海》1939年
フランスに滞在中、モネやセザンヌらが繰り返し主題に選んだ名勝の地を描いた。



《ピアノ》1945～48年頃
穏やかな室内画は故郷への疎開時期、家族をモデルにして多く描かれた。

後半となる第2期
(2021.10.26～
2022.3.13【予定】)
もぜひお楽しみに



《花と女》1932年
第19回二科会展出品作品のひとつ。
同展において、二科会友に推挙された。

《赤い背景》1938年
奥沢の住居兼アトリエで描かれた。金魚鉢のモチーフがマティスの作品を思わせる。

1939(昭和14)年 ● 第二次世界大戦勃発により、帰国。

1938(昭和13)年 ● 初めての渡欧。パリではアカデミー・ランソンに在籍し、ルーブル美術館を中心に各地の美術館で模写を重ねる。

1935(昭和10)年 ● 世田谷区奥沢にアトリエ兼住居が完成し転居。★当館はその跡地に建設され2004年に開館

1928(昭和3)年 ● 結婚。翌年、妻・文枝との間に長女・美音子(みお)が生まれる。

1927(昭和2)年 ● 安井曾太郎を訪ね、以降、指導を仰ぐ。二科展初入選。以降、さまざまな美術展に出展し入選を重ねる。

1922(大正11)年 ● 上京。川端画学校洋画部に在籍し、藤島武二らの指導を受ける。

1920(大正9)年 ● 旧制小松中学校を中途退学。画家を志し、兄を頼って神戸に出る。

1905(明治38)年 ● 石川県的小松市松崎町に生まれる



《赤松と溪流》1935年
師と仰いだ安井曾太郎の影響が色濃い風景画。



《死の家族》1950年
1951年1月刊の「アサヒグラフ」誌上で初めて披露した「未発表」作品。自らの戦争を振り返った鎮魂の画といえる。



《飢渴》1943年
当館で唯一所蔵する、油彩による戦時中の作戦記録画。

世田谷美術館分館

宮本三郎記念美術館

〒158-0083 東京都世田谷区奥沢5-38-13
TEL.03-5483-3836 <http://www.miyamotosaburo-annex.jp/>

【交通案内】

◎電車…東急東横線・大井町線「自由が丘」駅より徒歩7分／東急大井町線「九品仏」駅より徒歩8分／東急目黒線「奥沢」駅より徒歩8分 ◎バス…東急バス(渋11)田園調布駅～渋谷駅「奥沢六丁目」下車徒歩1分／東急バス(園01)田園調布駅～千歳橋駅「浄水場前」下車徒歩10分



© 宮本和義

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1
TEL.03-5450-9581
<http://www.mukaijunkichi-annex.jp/>



© 宮本和義

生涯120年 向井潤吉の歩みと作品—デザインの仕事を加えて
2021年4月1日(木)～9月26日(日)

世田谷美術館分館

清川泰次記念ギャラリー

〒157-0066 東京都世田谷区成城2-22-17
TEL.03-3416-1202
<http://www.kiyokawataiji-annex.jp/>



© 宮本和義

清川泰次 線と立体表現
2021年4月1日(木)～9月26日(日)



世田谷美術館

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2
TEL.03-3415-6011(代表)

【展覧会のご案内】

TEL.050-5541-8600(ハローダイヤル)
<https://www.setagayaartmuseum.or.jp/>

*詳細はホームページなどでご確認ください。

開
展
期
間

企
画
展

ミュージアムコレクション

アイノとアルヴァ 二人のアールト

フィンランド—建築・デザインの神話

塔本シスコ展 シスコ・パラダイス

驚異の三人!! 高松次郎・若林奮・李禹煥—版という場所で

グローバル化時代の現代美術

—“セタビ”のコレクションで楽しむ世界旅行

それぞれのふたり 大沢昌助と建畠竜造

3月20日(土)～6月20日(日)

9月4日(土)～11月7日(日)

4月17日(土)～6月13日(日)

7月3日(土)～8月22日(日)

9月11日(土)～11月21日(日)

※新型コロナウイルス感染症の拡大防止及び抑制のため、ご入館に際し、マスクの着用、検温、連絡カードの記入のご協力をお願いしております。混雑時は入場制限をさせていただきます場合がございます。
※展覧会の会期等が、急遽変更や中止となる場合もございます。最新情報は、当館ホームページ等でお知らせします。